



市・有形文化財 美術工芸品（絵画）

けん ほん ちゃくしよく

あ み だ さん ぞん ぞう

絹本著色 阿弥陀三尊像

魚津市諏訪町（大泉寺）

この像は正面を向き、阿弥陀の印相は通常みられる来迎相らいごうそうと異なり、消失した奈良の法隆寺金堂壁画の阿弥陀にみられる説法相に近い。古い様式をとどめたもので、鎌倉時代の作と推定されている。

素材の絹の目が細かく、また、絵画の構図や衣の紋様の特徴などから、日本で製作されたものではなく、朝鮮半島(当時は高麗)からもたらされたものと考えられる。北陸と朝鮮半島との交流は古くから行われていたが、この絵画も当時の関係を示すものの一つである。

この絵画がどのような経緯で大泉寺にもたらされたかは不明である。発見当時は、長年の傷みで破損も著しかったが、保存処理が行われ、大切に保管されている。